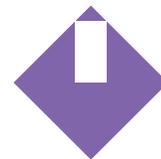


公認会計士稲門会



「公認会計士稲門会・会長報告」 「この1年の活動のご報告」



すぎた じゆん
杉田 純

(1974年 商学研究科修士課程修了)

「参加型公認会計士稲門会の本年の歩み」

本年度はアフターコロナの状況下で稲門会活動も臨場型の対面での会合の開催も多く実施できました。逆に大人数ですと3カ月以上前から予約しないと会場確保ができない状況になっておりました。格段にコミュニケーションが良くなってきた感があります。この中で一昨年以來、公認会計士稲門会では会計士業界の大きな変化を捉えた「企業内会計士」、「女性会計士」増大への対応や、スタートアップ支援要請に応える「起業支援アクセラ部会」などの部会新設など行って来ており、「女性会計士部会」では三田会との合同での活動を模索するなどそれぞれ順調に活動が行われてきております。加えて、稲門出身公認会計士試験合格者数の大学別順位が過去50年以上も2位の座を続けており、このこと自体は素晴らしいことですが、現在1位の大学との差が大きくなり、3位の大学からはその差を詰められているという現状認識から、稲門会としては公認会計士の魅力や試験制度の理解、初歩会計学などの研修などを早大在校生向けに、後進育成部及び女性会計士部会が中心となり啓蒙活動を開始することに致しました。更に早大関係付属・系属6校に対しては昨年新設さ

れた「稲門CPA研究部会」が担当しており、それぞれの高校の卒業生である稲門会メンバーが母校へ積極的な働き掛けを始めており、既に5校でセミナーなどを開始しております。これに伴い、受験予備校などの入学金、授業料の支援（年間2回、各回4名程度に各5万円の賛助金を支給予定）を行うため「奨学・支援金」を特別会計として別途設定し、会員から一口1万円のご支援をお願い致しております。以上は、最近試験合格者を増加させている他大学の制度を参考にしたものです。

以上、私は公認会計士稲門会会長に3年前に選任されて以来、コロナ禍の中で稲門会活動を単に懇親活動に留めず、「参加型」の稲門会活動により如何に活性化させるかについて腐心して参りました。しかし、今後は更に当稲門会が母校早稲田大学、稲門会計士の皆様、更には公認会計士業界などに対しても何らかの価値ある貢献をしていくためには、当稲門会自体の一層の活性化が求められると思っております。私は本年7月には会長任期の定めにより退任する予定でございますが、今後共に会員の皆様の継続的なご支援とご協力を切にお願い申し上げますと同時に、次期新会長にも同様のご支援の程をお願い申し上げる次第でございます。

「この1年間の活動報告」

1. 定時総会の開催

‘23年7月5日大隈会館において令和4年度の定時総会が3年振りに来場方式で開催されました。総会では令和4年度の会務報告の後、議案として会計報告、監査報告、令和5年度の事業計画、令和6年度（令和6年4月1日）から維持会員の年会費を8000円とする全ての議案が原案通りに承認されました。次いで、報告事項として、①奨学事業の現況報告、②稲門会各部会活動報告（企業内

会計士部会、女性会計士部会、起業支援アクセラ部会、稲門CPA研究部会、後進育成部、広報部、ゴルフ部)が行われました。続く懇親会ではご来賓(大学関係者、他大学会計人会、他稲門会など)を含め約70名が参加され、盛会にて久しぶりのパーティーを楽しみました。

2. 役員会の開催

(1) '23年10月6日開催役員会一

オンライン&リアルで開催され、出席役員は約30名で、議案としては、新組織である「稲門CPA研究部会」の担当副会長(小林尚明氏)と常任幹事の選任、「後進育成部」の担当副会長(白井亨氏)・常任幹事の選任、「一部の常任幹事の退任と選任」と提案通りに承認され、本年度公認会計士稲門会の役員を含む組織体制も承認されました。なお、稲門CPA研究部会は、附属・系属高校生への会計士試験受験を促進する部会であり、事業計画の承認と合わせ一部経費の本会での支出、受験生向けの新たな「奨学・支援金」制度も創設することも承認されました。

(2) '23年12月18日開催役員会一

令和5年度2回目の役員会がオンライン&リアルで開催されました(出席役員は議決権行使書の提出者を含め約25名)。議題としては第一に公認会計士試験の合格祝賀会の開催について、論議致しました。日程としては令和6年3月28日リガロイヤルホテル東京での開催を決めました。今回は前年同様に各監査法人から若手の会員を「祝賀会プロジェクト」のメンバーとして推薦を頂き、12月からプロジェクトを推進させること、推進責任部会は後進育成部(担当副会長白井亨氏)が担当することになり1月には早大公認会計士講座(担当長谷川教授)とも面談しご協力を得ることになりました。合格者の皆様に喜んで頂ける祝賀会にしたいと考えておりました。第2に、稲門関係の試験受験生増大のための、大学、附属高校の在校生向けの「奨学・支援金」制度について論議しました。内容としては、毎年、大学・大学院生、附属・系属高の在校生へ年2回4名以上に受験予備校の授業料・入学金の支援のための基金へ会員の皆様から一人

一口1万円以上の賛助金を募集することの詳細も論議され、承認されました。

3. 大学・校友会関係

(1) '23年6月15日総長主宰「稲志賛助員名称贈呈式」一

大隈会館での贈呈式に招待され、杉田会長が出席して参りました。この稲志賛助員は「公認会計士稲門会奨学金」を含めて多額の寄付(100万以上)をされた方に与えられる名称です。公認会計士稲門会の会員でもある飛永信雄様('58年理工卒業)は当奨学金へ224万の寄付をされました。感謝申し上げます。

(2) '23年7月13日総長主宰

「早稲田大学校友会奨学生証授与式」一授与式は大隈会館で懇親会が同ガーデンハウスで開催され、山田奨学事業担当副会長が出席して参りました。

(3) '23年7月21日

「明治大学公認会計士会総会・懇親会」一駿河台リパティータワーで開催され、杉田会長が出席して参りました。

(4) '23年7月22日「税理士稲門会総会」一

会場のリーガロイヤルホテルへ招待され杉田会長が出席して参りました。

(5) '23年7月28日「青学会計人クラブ総会・懇親会」一

会場のIVY HALLへ招待され、脇副会長が出席して参りました。

(6) '23年9月6日

「法政大学公認会計士法友会総会・懇親会」一会場の市ヶ谷ポアソナード・タワーへ招待され、杉田会長、山田副会長の2名で出席して参りました。

(7) '23年10月27日「専修大学会計人会第60回総会」一

杉田会長が招待され、出席させて頂きました。

(8) '23年11月10日「全国大学会計人会サミット

三田税理士会、会計士会主催、慶応大学)」一杉田会長が招待され出席して参りました。この会は全国の大学の会計人会の年次サミットで、本年は当番校が慶応大学でした。テーマは「SDGsと会計の役割」でした。

(9) '23年12月5日「稲門弁理士会100周年記念総会」一

会場のリーガロイヤルホテルへ杉田会長が出席して参りました。長い歴史の一端を垣間見ることができました。

(10) 23年12月20日、総長主催

「奨学金認定書授与式(リーガロイヤル東京)」— 杉田会長が出席しました。この会は奨学金
抛出団体と奨学生との友好関係を深めるため
の会であり、他の奨学団体との懇親を深める
こともできました。

(11) 24年3月25日「早大大学院会計研究科学位授与式」—

早大キャンパス内の井深記念講堂にて100名
以上の大学院修士課程修了者が参加した会計
研究科の学位授与式に来賓として招待された
杉田会長が祝辞を述べて参りました。

(12) 24年3月28日、公認会計士試験合格祝賀会の

稲門会・早大公認会計士講座との共催での開催—
リーガロイヤルホテル東京ロイヤルルー
ムにて、合格者61名(昨年度早大合格者128
名)、稲門会会員34名、稲門会役員31名、ご
来賓8名(大学関係6名、他稲門会2名)の計
134名の祝賀会になり、大変盛り上がりまし
た。最後はエール・校歌斉唱で締めました。
なお、本祝賀会の開催には公認会計士講座様
のご協力はもとより大学院会計研究科、7監査

法人、2社のコンサル会社様、また13名の会員
からも多額の賛助金を応援して頂きました。

(13) 24年4月17日

公認会計士稲門会・三田会の合同懇親会—
コロナ禍で4年中断していた公認会計士三
田会との合同懇親会が溜池山王下の永楽倶楽
部にて58名の参加者により盛大に行われまし
た。久しぶりの開催で会は大きく盛り上が
り、楽しい懇親会となりました。

(14) 24年4月24日

早大商学大学院と日本公認会計士協会東京会
共催の「公認会計士制度説明会」—
恒例の商学大学院と日本公認会計士協会東
京会共催の公認会計士制度説明会が商学部
にて、全商学部1、2年生を対象に開催され、来
賓として招待された杉田会長が冒頭に商学
部・東京会様に開催の御礼と公認会計士稲門
会の早大在学生向けの試験受験の支援制度の
説明に加え、公認会計士の夢ある未来につい
て講演して参りました。

「公認会計士稲門会奨学事業」

- 2023年度奨学事業報告 -



(奨学担当副会長)

山田 眞之助

(1980年 商学部卒業)

日ごろ奨学事業を支えていただいている皆様には敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

2023年12月20日(水)リーガロイヤルホテル東京にて総長招待の奨学生の集いが開催され、杉田純会長が出席しました。

奨学金寄付は「広く軽く」を基本方針とし、多くの皆さまに無理のない範囲でのご支援をお願いしています。引き続き本事業のために皆さまのご協力を賜れば幸いです。なお、寄付の申し込み方法は「公認会計士稲門会奨学金へ寄付のご案内」をご参照ください。

「2023年度総長招待 指定寄付奨学生の集い」
公認会計士稲門会奨学生集合写真(2023年12月20日)

2023年度 総長招待 指定寄付奨学生の集い



お写真の左から以下のとおりです(敬称略)
矢内義顕 (早稲田大学学生部長)
杉田 純 (公認会計士協会会長)
呉 依潼 (奨学生 中国)

2023年度の事業実績

1. 奨学金の給付状況

大学より次の3名を推薦いただき、各人に50万円を給付しました(学年は給付時)。

チェン ケ チェン (CHEN, Ke Chien)
国際教養学部 3年 台湾

呉 依潼 商学部 4年 中国

金 兌俊 法学部 4年 韓国

2. 奨学事業収支年度別一覧

(単位:万円)

年 度	1991~2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	累 計
寄付金収入	5,948.5	133	180	172.6	119	6,553.1
(寄付者数)	(1,827名)	(46名)	(42名)	(38名)	(28名)	(1,981名)
奨学金給付額	5,700	100	150	150	150	6,250
(奨学生数)	(114名)	(2名)	(3名)	(3名)	(3名)	(125名)
資金繰越残高	248.5	281.5	311.5	334.1	303.1	

3. 2023年度寄付者芳名(順不同・敬称略) 2024年3月31日現在

堀内 三郎	西山 隆司	抜水 信博	渡辺 俊之	稲葉 武彦	尾碕 隆昌
山田眞之助	安村 長生	杉田 純	佐藤 正典	三宮 圭祐	澤 昭人
高井 宏司	藤田 世潤	奥山 章雄	富永 和也	種田ゆみこ	松下八寿彦
渋谷 道夫	鈴木 豊	金田 賢二	山口 俊明	飛永 信雄	勝島 敏明
久保 直生	上野 紘志	関口 典子	関根 愛子		

以上 28名

「公認会計士への期待」

大塚宗春
(名誉教授)

(1967年大学院商学研究科卒業)

個人的な事から始めるのをお許しいただきたい。私は2013年3月に早稲田大学を定年退職したが、最終講義を「早稲田の会計学の歩み」というテーマで行った。私は大学卒業後大学院に進学し、大学の助手に嘱任された。その後専任講師・助教授・教授として商学部に在職した。50年以上にわたり早稲田大学で過ごしてきた。その間多くの先生方からお教をいただいた。職場で働く同僚として一緒に過ごした先生も多数いる。そこで僭越であるが、戦後の佐藤孝一先生以降の先生を中心とする早稲田会計学の歩みについて人の側面からお話しをした。この時の話を核として、稲門公認会計士会のホームページに「早稲田大学の会計学の歩み」として15回（現時点では6回まで発表済み）にわたり連載させていただいている。私は会計学においても歴史をしっかりと押さえておくことが重要だと思っているからである。早稲田の会計学の先生にはどのような方がいてどのような考え方（学説）をされていたか、それがどのように受け継がれてきたかを学生諸君に知ってもらいたいと思い、最終講義のテーマに選んだ。

早稲田の先生方だけでなく、会計学者としてどのような先生がいてどのような学説を展開していたかはこれから新たな問題が出てきたときにどのように対応するかのヒントになると思われる。公認会計士試験合格のために通った専門学校の教材は要点をよくまとめている、これを中心に学ぶことは合格の早道であることは間違いない。しかし、これからはこれだけでは十分でないと思う。時価会計というテーマ一つとっても、時価会計を主張するに至った理論は学者によって必ずしも同

じではない。ある学者がなぜそのような考えをするのかを理解することは重要であると思う。時価会計に反対する学者は何故反対するのか、その見解の根底にあるものは何か、といったことに触れてほしい。また、会計学の古典と言われる書物、例えばペイトン・リトルトンの「会社会計基準序説」なども是非紐どいてほしい。

3月に行われた公認会計士試験合格祝賀会で、大学2年生で合格した女性がいて大変驚いた。2年生で合格するなって天才かと思った次第である。現在の公認会計士試験制度に変わる前は第一次試験、第二次試験、第三次試験と三つの試験が行われた。第二次試験に合格すると会計士補の資格が与えられた。第一次試験は国語、数学、論文でいわば教養を問う試験であった。大学で一般教養科目修了者にはこの第一次試験が免除された。当時の大学では一般教養科目終了には2年を要したので、第一次試験を受験しない場合には、早くても大学3年生にならないと合格できなかった。2年生での合格者は早稲田では聞いたことがなかった。試験制度が変わり、年齢、学歴を問わず受験できるので、小学生でも受験して合格することも可能である。

先進諸国の公認会計士試験制度で受験資格を定めていない国はあるのだろうか。アメリカでは州によって学位要求の程度は異なるが、ニューヨーク州は学士の学位に加えて追加の教育プログラムを要求しているようであるし、イギリスでも一般教育修了証という教育レベルを認定する試験で何科目かの合格を要求しているようである。日本の公認会計士には教養は不必要と考えているのかと問わざるを得ない。

日本公認会計士協会のタグラインをご存じのことと思う。「Engage in Public Interest 社会に貢献する公認会計士」が使われてきたが、2022年に「信頼の力を未来へ」という新たなタグラインがリリースされた。「私たち公認会計士は、高い倫理観と専門的知見をもとに説明責任を究め、世界の人々と共に社会に信頼を創り上げていくことで、安心で活力に満ちた豊かな社会の創造に貢献するプロフェッショナルです」と書かれている。社会から真に信頼を得る公認会計士たるには何が必要かを一人一人じっくりと考えてほしいと願っている。

「早稲田は今？」



関根 愛子
(商学学術院教授)
(1981年理工学部卒業)

教員となり4年、早稲田は今どう?と訊かれることがよくあります。そこで、いつも応援して下さる皆様に、早稲田大学の今についてご紹介させていただきます。

1. 商学学術院って何?

「商学学術院とは?」早稲田で教えていますと名刺を出すとよく訊かれます。中には「大学院ですか。」と言われる方も…。実務家として大学院で教えている方が多いためかとも思いますが、学術院であって大学院ではありません。早稲田大学は現在、商学のみでなく、法学や政治経済等10の学術院に分かれており¹、商学学術院の場合は、商学部、商学研究科、会計研究科等の6つの組織が含まれています²。したがって、商学系の教員は、組織上は商学学術院の所属であり、教授会等もその単位で行われています。

もっとも、その中で主担当(私の場合は商学部)があるため、商学部等と名乗る方もいらっしゃいます。人数が多い早稲田には様々な組織があるため、関連する領域での連携を深めようと組織化されたときいています。

2. 早稲田には今何人いるの?女性の割合は?

学部の在籍者数は約39千人(うち商学部は4千人弱)、大学院が約8千人(うち会計研究科は230人程)であり³教職員が約5千人(うち専任教員が約2千人)です⁴ので、全体で約5万人となります。ずっと以前から言われていた「早稲田5万人」というのは今も健在です。

ちなみに、早稲田大学は入学式が4月1日、卒業式が3月25日というも(少なくとも私の在学中から)ずっと変わっていませんが、最近はどちらも2日間にわたって午前午後と4回に分けて行われて

います。学生数は同じでも保護者がいらっしゃるごが増えたため、近隣での混雑等も配慮しての分散開催のようです。

また、以前は入学式後すぐ授業が始まりましたが、昨年度から100分授業となりその分授業日数が減り、春学期は4月中旬から始まり、秋学期は10月から始まるセミスター制を採用し、9月入学、卒業の方もいらっしゃいます。

そのような中、女性の割合は確実に増えています。在学生全体で約4割、商学部で約33%、私のいた理工学部系でも約24%となっています。大学院も全体で女性が約4割とのことであり、キャンパスでも多くの女性がいて、私の学生時代とは隔世の感があります。

3. 最近の学生気質は?公認会計士を目指す?

最近の学生は真面目という声をよくききます。確かに自分自身の頃と比べるとそう感じます。出席数が足りないと単位が取れず、学費を出してもらっている親に申し訳ないという声もよくききますし、せっかくの機会なのでいろいろ学んでおこうとする学生もいます。学生時代から公認会計士試験を目指す方も多く、同時に大学の成績も良い学生も少なくありません。

もっとも商学部の場合はゼミに入らなくても卒業できるため、受験勉強に専念するためゼミに入らないという方も少なくないようです。他方で、勉強のため、そしてコロナ禍もあってサークル活動等をあまりしていないので、仲間を作りたいゼミに入る学生も結構います。そうしたゼミの学生をみると、新歓コンパで羽目を外すという昭和の騒ぎ方ではなく(そもそも未成年禁酒はかなり厳しくカラオケ入場に身分証明書がいるところも)、様々な形での交流の仕方を工夫しつつ楽しんでいて、やはりいつの世も同じ、とも感じています。

以上、限られ情報のご紹介でしたが、その他の情報も含めウェブサイトにもいろいろ掲載されていますので、皆さんも仕事の合間に覗いてみてはいかがでしょうか?また、お時間がありましたら、是非、都の西北まで足を延ばして早稲田の今を感じ、後輩たちを応援して下さい。今年の8月終わりには、日本会計研究学会の全国大会が開催されますし、今も変わらずキャンパスは誰でも自由に入れます。

- 1 学部・大学院・図書館 - 早稲田大学 (waseda.jp)
- 2 早稲田大学 商学学術院 (waseda.jp)
- 3 学生に関する情報 - 早稲田大学 (waseda.jp)
- 4 教職員に関する情報 - 早稲田大学 (waseda.jp)

「日本の会計における 学界と実務界の連携」



薄井 彰
(商学学術院教授)
(1983年商学部卒業)

2021年9月に日本会計研究学会の会長を仰せつかり、本年8月末で3年の任期を終えます。日本会計研究学会は、1937年に創設され、会員約1,700人を擁する社会科学領域でも有数の学会です。本学出身の会長としては、青木茂男先生、染谷次次郎先生、新井清光先生に続く4人目となります。現体制では、(1)日本会計研究学会と会計関連学会の連携の強化、(2)次世代会計研究者の育成ならびに会員の会計研究力および教育力の強化、(3)会計研究・教育における学界と実務界の連携の強化を目指しております。

日本会計研究学会は、2023年に次世代会計研究教育会議を立ち上げました。第1回と第2回の全体会議では、財務会計基準機構、東京証券取引所、日本監査役協会、日本公認会計士協会、日本証券アナリスト協会、日本税理士連合会、日本内部監査協会、大手および準大手の監査法人、独立系の税理士法人が参加なさいました。この会議は、学界と実務界の連携を通じて、次世代の会計研究を振興すること、および国内外の社会的厚生の上昇に貢献する次世代会計人を育成することをミッションとして掲げ、(1)学界と実務界の協議を通じて、最先端の学術研究と最前線の実務とを互いに理解し、日本の会計制度や会計実務における諸課題を議論し、検討するための場を設けること、(2)学界にとっては、実務界との連携を図る中で、実務に対する理解を促進し、かつ、実務界との協力を推進することによって、研究の機会を広げること、(3)実務界にとっては、学界との交流を通じて、学界の知見に触れ、会計関連の各学会への参加の機会を得るとともに、実務における諸課題

に対する共同での取組みの機会を得ること、(4)主に大学等の高等教育機関において教員としての役割も担う会員からなる日本会計研究学会と、大学生等を人材として受け入れる実務界との間で、日本における会計教育の諸課題を検討し、次世代の会計人材育成を図ることを目標とし、次世代に向けて日本の会計学に係る学界および実務界の持続的発展のための施策に取り組んでおります。ここでは、学界も実務界も、日本の会計が5年後、10年後にグローバルな環境のもとでサバイブできるのかという強い危機感を共有しています。

公認会計士・監査審査会によると、公認会計士試験の論文式試験合格者の平均年齢は2008年の27.0歳から2023年の24.5歳に2.5歳低下しています。大学在学中に合格してすぐに監査法人でキャリアを開始する学生も少なからずおられるでしょう。そうした優秀な学生であっても、残念なことに会計学の入り口で学びを終えてしまう傾向にあります。会計大学院を別とすれば、全国的にも学部から大学院の修士課程に進学する学生は減少傾向です。さらに博士課程に進学し、会計学を研究する学生はほとんどの大学で年間数名にとどまっています。

現代の会計学は、今や、経済学、経営学、社会学、心理学、数学やコンピュータサイエンス等の複合領域で、高度な統計手法を利用して実証的証拠を提供することが主流です。会計が社会の重要なインフラストラクチャーであることは言を俟たないでしょう。優秀な人材が会計の学界や実務界に参入して、社会的厚生を向上させる会計制度を構築することが必要です。今日、テクノロジーと学術的なイノベーションの進展は著しく、実務界と学界の共創が不可欠です。公認会計士が大学院の修士課程や博士課程に進学して会計の学問を深化させることも期待されます。

早稲田大学は日本の会計の主要なアクターです。その伝統を継承し、発展させるべく、公認会計士稲門会の先生方のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「公認会計士試験 合格祝賀会」



白井 亨
(後進育成担当副会長)
(教育学部国語国文学科卒業)

3月28日にリーガロイヤルホテル東京3Fロイヤルホールにて、2023年度の公認会計士試験合格祝賀会を開催いたしました。昨年度は円卓への着席形式でしたが、本年度は本来の立食形式での開催となりました。出席者数は前年度123名に対し、本年度は合格者61名を含む計134名の出席となり、盛会となりましたことをご報告いたします。当日お忙しい中ご来場下さいました来賓の先生方、役員・会員の先生方にはこの場を借りて御礼申し上げます。

さて、本祝賀会は他大学で一般的な大学主催の合格祝賀会ではなく、本公認会計士稲門会が主催しております。費用は大学及び各法人・個人の賛助金により賄っており、準備や当日の運営は本稲門会の役員・会員及び商学部公認会計士講座の事務員が担っているという特徴がございます。祝賀会準備・運営チームには私ども後進育成部のメンバーに加えて各監査法人からも参加を頂いており、総勢18名にて昨年11月末より5回の打合せを重ね、来賓・案内状・記念品・司会・受付と分担しながら準備を進めて参りました。賛助頂きました各位は勿論ですが、準備・運営チーム及び会計士講座事務員各位がいらっしゃらなければ本祝賀会の運営は不可能であり、皆様の多大なお力添えに深謝申し上げます。

早稲田大学出身の合格者数は毎年のように慶應に次いで2位となっておりますが、来年度は更に合格者数が増え、本祝賀会引いては本稲門会が盛り上がりつつあるよう、後進育成部として取組んで参りたく存じます。本会役員・会員各位におかれましては、引続きのご支援・ご協力を賜りたく、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

「ワセジョ会計士NW～女性会計士の現状・部会活動の方向性」



種田 ゆみこ
おいだ
(女性会計士部会 副会長)
(1989年 商学部卒業)

★ワセジョ会計士NWこと女性会計士部会

女性部会は、担当副会長の種田と常任幹事の園マリさん、藤森恵子さん、茶田佳世子さん、野田優子さんを中心に、「男女入部可能」をモットーに運営しています。教務副会長の関根愛子さんと企業内会計士部会副会長の脇一郎さんには顧問として大学連携を、広報の抜水さんにはイベント写真撮影をサポート頂いています。

★幹事会

Webとメール、時々リアルに個別対面

★イベント

- 1) 2023年11月 大隈侯ゆかりの永楽倶楽部にて、常任幹事3名(園、藤森、野田)をパネリストとしたミニパネルディスカッション「先輩にキャリアについて聞こう」と懇親会をリアル開催(2022年合格5人のJ1含む男女23人参加)
- 2) 2024年3月 公認会計士合格祝賀会で、女性部員5人(種田、園、藤森、小西、林田)が舞台上がり、女性会計士部会に勧誘PR
- 3) 2023年9月(種田)と2024年2月(藤森)資格の学校TAC公認会計士講座主催の「公認会計士特別セミナー」にて受験生向けに講演

★方向性

- 1) ワセジョ会計士受験生の増加を目指す

2023年公認会計士試験最終合格者数1,544人のうち女性345人、女性比率22.3%。早稲田大学・大学院出身の補習所登録者数128人のうち女性30人、女性比率23.4%。早稲田全体の合格者数増と会計士協会同様に女性合格者比率3割を目標に、大学と連携して取り組みます。

- 2) 女性部会 Facebook への投稿を増やす
- 3) 年1回以上イベントの開催
- 4) 公認会計士三田会女性会計士との交流

★最後に

Facebook を開設ゆえ、ぜひ参加申請下さい。

■ 公認会計士 稲門会「ワセジョ部会」FB：
<https://www.facebook.com/groups/447086503596042>



祝賀会 女性部会



ワセジョイベント 集合写真 (2023.11.20)

「ワセジョ会計士ミニパネル ディスカッション付き懇親会開催」



園 マリ

(女性会計士部会 常任幹事)
(1975年商学部卒業)

杉田会長の御発案で女性部会(通称ワセジョ部会)が誕生し、種田副会長のリーダーシップで、人の輪が着実に広がっています。活動は女性に限らないオープンなもので、本稿では、11月20日夜に永田町永楽倶楽部で開催されたミニイベント付き懇親会の模様を御紹介します。

当日は、男性も交えて様々な年代の23名がリアルで集い、杉田会長の力強い御挨拶に続くミニパネルディスカッション「先輩にキャリアについて聞こう」では、種田副会長がコーディネーター、当日出席の常任幹事3名(会計事務所経営・野田さん、起業して会社経営・藤森さん、監査法人退職後社外役員等・園)がパネリストとなって、参加者からの活発な質問、選択肢が多いが故のキャリア形成の悩みに、経験談を交えてお答えし、懇親会へと移りました。

会計は、どの組織にも必要な普遍性、利害関係者への説明責任を果たす社会性、ジェンダー等への中立性、過去の記録、現在の評価、将来の予測による時間軸の長さ、基準の国際性に加えてエビデンスベースという、現代社会の要請に応えるための機能を備えています。

試験合格者数は、長く慶應さんに水をあけられていますが、幅広く奥深い会計の扉をより多くの皆様に叩いて頂きたく、また、国際的に見ても女性の社会進出割合が低い日本の活性化、多面化のためにも、会計の知識経験をバックボーンにもつ女性の一層の活躍が期待されています。

関根顧問(早稲田大学教授、元日本公認会計士協会会長)からの温かいメッセージで会はお開きになりましたが、さらなる交流を深める数名ずつの集まりができ、また参加したいという嬉しい声も頂きました。

「企業所属の公認会計士が近年急増」



脇 一郎
(企業内会計士部会 副会長)
(1993年商学部卒業)

企業内会計士部会は、昨年から新設された部会で、主に企業や公官庁など、監査法人や会計事務所以外の組織や団体などに所属している「組織内会計士」「社外役員会計士」のグループです。公認会計士のキャリアは多様化を極めており、すでに金融庁の統計では、監査法人勤務者が40%程度(2023年3月末現在)である一方、企業内会計士が近年急増しており、当部会新設の背景にもなっています。2023年12月末現在、JICPA組織内会計士ネットワーク正会員2418名、社外役員会計士ネットワーク正会員1805名、単純合計すると4200名近い方が企業に従事している公認会計士となっています。これは、(準会員を含めた)会員全体の約10%に相当しています。

当部会では、このような多様なキャリアを支援する施策の一環として、公認会計士を目指したい学生向けに相談窓口を開設し、キャリア相談などを行っています。

現在、下記Facebookページを開設して対応しております。

組織内会計士部会 Facebook ページ：
<https://www.facebook.com/groups/681180423039929>

今後のキャリア相談をしたいという方がいらっしゃれば、ぜひ当サイトを訪問してみてください。

「公認会計士稲門会
アクセラ部会2年目について」

江黒 崇史
(起業支援アクセラ部会副会長)
(1999年商学部卒業)

公認会計士稲門会の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、将来のIPOを目指すベンチャー企業の支援や起業家支援、スタートアップ支援へ取り組む公認会計士稲門会アクセラ部会でございますが、この一年の主な活動としては同じ稲門でベンチャー経営者ネットワークを有するベンチャー稲門会と数々の取り組みを実施させていただきました。

具体的には「公認会計士稲門会×ベンチャー稲門会」としてベンチャー稲門会の中でも特にIPOに関心のある方など向けに勉強会講師を務めさせていただきました。

この一年間での実施テーマとしては「ストック・オプション入門セミナー」「会社のEXIT手法、IPOとM&A」「起業家が知っておきたい資産管理会社の活用」「IPOを目指す上で知っておきたい監査法人、証券会社の役割や選び方」などを実施させていただきました。この活動はアクセラ部会の野田常任幹事によるご尽力の下、ベンチャー稲門会との協業活動が実りました。

また、昨年担当させていただきました早稲田大学長谷川先生のスタートアップファクトリーにおけるビジネスモデル審査員も継続して依頼を受け、今年是我が公認会計士稲門会杉田会長に最終審査員を務めさせていただきました。

現在は新たな活動としてファイナンス稲門会とも協業しております。その中ではスタートアップ向けファイナンス分科会などを設置し、稲門メンバーで早稲田大学を盛り上げていけないか思案中でございます。今後のさらなる活動に向け公認会計士稲門会の皆様によるご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

「士縁と学縁と酒縁」



川口 達也
(2012年商学部卒業)

都の西北を卒業してから干支が1周した節目に、このような機会を頂けて感謝をしております。私ば組織内会計士」一筋で働いてきましたが、振り返ると事あるごとに稲門の学縁を感じる場面に出くわすことがありました。(ちなみに、キャリアの詳細については「日本酒 会計士」で検索すると出てきますので、気になる方は調べてください。)

1つ目は、在学時に大塚ゼミに入った際の課題図書が稲盛和夫の「実学」で「こんな本があるのか、ふーん」と思っていたら、旅行系スタートアップに転職した際に、直後にKDDIにExitし、リアルに稲盛会計学をDDIプロパーのCFOから実務を通して学ぶ機会に恵まれました。2つ目は、山形県酒田市にある榎の川酒造にて役員として経営に携わった際に、取引先の顧問税理士の先生が偶然にもゼミの先輩会計士で色々相談させて頂くということがありました。

私も今年で36歳になり、いわゆる中堅の部類に入ってきました。この12年間で「好きを仕事に」をテーマに酒蔵の役員まで到達したことで一定の自己実現を果たし、燃え尽き症候群に最近はなっていました。色々調べる中で「中年の危機(ミッドライフ・クライシス)」ということが分かり(自己診断)、今までの自己を破壊して、再構成するタイミングだということで、色々試行錯誤をしている最中です。

その中で強くなってきたのは「会計士・早稲田・日本酒」への感謝であり、この3つのおかげでうまく事が運び、稀有な経験もさせて頂いたと感じています。なので、次の干支の1周は1週目でお世話になったものにお返ししていければと思っておりますので、稲門会計士の皆様、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

「公認会計士と
ソーシャルビジネスの経営」

林田 絵美
(2015年政治経済学部卒業)

【略歴】

2013年 公認会計士論文式本試験合格
2015年 早稲田大学政治経済学部卒業
2015年～18年 PwC あらた有限責任監査法人
(現 PwCJapan 有限責任監査法人)
2018年 株式会社キズキ 入社・新規事業立ち上げ
2022年 株式会社キズキ 取締役 CFO 就任

【ソーシャルビジネスの経営】

私は「何度でもやり直せる社会を作る」をビジョンとする株式会社キズキ(kizuki-corp.com)を営んでいます。株式会社キズキでは、不登校・中退・発達障害等の方の受験や学びなおしを支援する個別指導塾「キズキ共育塾」、うつや発達障害等で就労に困難を抱えた方がキャリアを築くためのビジネススクール「キズキビジネスカレッジ」、全国約40の国や自治体からの受託により生活困窮世帯支援・少年院入所者支援等を行う「公民連携事業」を行っております。実は私自身、監査法人で働き始めた1年目に発達障害(ADHD・ASD)の診断を受けており、キズキ入社後は「キズキビジネスカレッジ」を始め、発達障害当事者のキャリア支援に係る様々な新規事業を立ち上げてきました。

現在はCFOとして、会計財務のみならずコーポレート全体を統括し、事業拡大を支える経営基盤の構築に努めています。事業を拡大し1人でも多くの方に支援を届けることで、不登校になっても希望の進路に進めたり、うつ病で一度離職に至っても再びキャリアを築けたりする人が世の中に増えたら、きっと一度立ち止まることはあっても、再び将来に希望を見出し、歩き始められる人は増えるはずで。事業を通じて社会の価値観を変えるほどのインパクトを出し、「何度でもやり直せる社会」を実現したいと思っています。



「CFO 公認会計士のキャリア・強み」



榎木 毅
(2008年会計研究科卒業)

こんにちは。会計研究科2008年卒業の榎木毅です。現在、株式会社ドレストーブルのCFOを務めています。当社は「Truffle BAKERY」というベーカリー事業を主軸にカフェ事業や海外展開も進めています。今回は私のキャリアと、CFOとしての役割について、私が感じる魅力と強みをお話したいと思います。

まずキャリアは監査法人でスタートし、多様な企業の監査に携わりました。その後、事業会社のCFOとして経営戦略を策定し、実行に移すことで会社の成長と上場を実現しました。独立して自身のビジネスを立ち上げるとIPO支援やM&Aを手掛け、多くの企業の成長をサポートしました。現在はドレストーブルのCFOとして、持続的な会社成長を目指して取り組んでいます。

CFOの魅力は、個人では実現できない価値の創造、夢を実現することにあります。具体的には、経営の意思決定に直接関与し、会社の方向性を定める重要な役割を担います。ビジョンを共有し、それを具体化する戦略を策定することで、夢の実現に向けた本気度を示します。また、社内外のステークホルダーとの関係構築を通じて、目標達成に必要なチームを形成することも、CFOの重要な任務です。

公認会計士としての経験は大きな強みです。財務の専門知識と深い事業理解のもと、チーム全体で目標に向かう協力的な関係構築や、複数のプロジェクトを効率的に同時に管理する能力など、現在直面する多様な業務で大きな効果を発揮していると思います。

CFOは常に変化と挑戦の連続ですが、その中で学び、成長し、多くの仲間と協力しながら、新しい価値の創造、夢を実現していきたいと思っています。

「ボウリング産業を活性化できる
会計士を目指して」

小野 在由
(2019年スポーツ科学部卒業)

この度は公認会計士稲門会会報への寄稿の機会をいただきありがとうございます。日本プロボウリング協会(以下、JPBA)・男子61期プロボウラーの小野在由(おの ありよし)と申します。

私は2023年にJPBAのプロボウラー資格取得テストと公認会計士試験に合格し、現在は現役プロボウラーとしてトーナメントに出場しながら、平日は監査法人にて勤務しております。

私は9歳でボウリングを始めてから、ボウリング漬けの学生生活を過ごしました。大学時代は、早稲田大学ボウリングクラブのメンバーとして、全日本大学選手権で準優勝の成績を残すことができました。

大学卒業後はWeb関連事業を行うスタートアップ企業に就職し、約4年間、営業職や企画職に従事しました。就職して2年ほど経つ頃に、子供の頃からの夢であったプロボウラーになることを決意しました。しかし、プロボウラーは賞金王でも年間獲得賞金は600万円ほどで、専業で活動できている人はいない状況です。そこで私は、プロボウラー活動と並行してできる職に就こうと考え、公認会計士試験の勉強を始めました。

仕事、ボウリング、勉強を1日に組み込む生活を2年間継続し、どちらのテストにも合格することができました。

私の夢は、ボウリングをより多くの人が楽しめる環境を作っていくことです。2023年12月には、ボウリング関連事業を行う会社を創業しました。現在は、ボウリングウェブメディアの運営とボウリングアパレルの企画販売を行っており、将来的には、グローバル展開するボウリング場チェーンを作りたいと思っています。

公認会計士として得る知識経験を活かし、ボウリング産業を活性化できるように取り組みます。

「合格までの道のりと今後の抱負」



早川 晃平
(2024年度商学部4年)

この度は公認会計士稲門会会報への寄稿という貴重な機会をいただきありがとうございます。僣越ながら、私の公認会計士試験に合格するまでの道のりと今後の抱負について書かせていただきます。

私が公認会計士を知ったきっかけは高校生の頃に高校OBで公認会計士として活躍されている方のお話を聞かせていただいたことです。大学へ進学するに際して、何か新しいことに挑戦したいと考えていたところ、高校時代のお話が契機となり、調べていく中で会計士の様々な分野での活躍や海外での活躍が目にとまりました。そして、会計士資格が将来の自分の強みになることに加え、活躍の場を広げることができると期待して試験への挑戦を決意しました。

会計士試験の勉強は長期間にわたったため、モチベーションの管理に苦戦しました。勉強を始めた当初はやる気に満ち溢れていたのですが、予備校の膨大な量の講義や答練に次第に辟易していき、勉強が全く手につかなくなってしまった時期もありました。そんな中でも私が合格に至ることができたのは、周りにいた志を同じくして勉強をしていた仲間たちの頑張りが私を後押ししてくれたおかげであると思っています。

今後の抱負としては、修了考査にしっかりと合格したあと、保険会社の監査や海外での職務を経験し、私自身の活躍の幅を広げていきたいと思っています。監査法人に入社すれば、周りの職員の方のほとんどは会計士であり、その中でも一人の会計士として私自身の更なる強みを持つことが必要であると感じました。私自身の可能性を信じて励んでいきたいと思っています。

「会計士を目指した理由と今後の抱負」



塩澤 雅也
(2024年政治経済学部卒業)

この度は公認会計士稲門会の会報への寄稿という大変貴重な機会を頂き、大変光栄に存じます。誠に僣越ながら、私が会計士を目指した経緯と今後の抱負を書せていただきます。

私が、大学に入学した2020年はコロナ禍真っ只中の時期でした。全ての講義がオンラインになり、対面でのサークル活動が禁止されるなど、大学生活に大きな制約が加わりました。何もできずにただ時間だけが過ぎていくのはもったいない、有り余った時間を少しでも将来のために有効活用しなくてはならないと考えた私は、資格試験の勉強をすることにしました。大学1年生の時は、統計検定2級、FP3級、ITパスポートなどの資格を取得していました。様々な資格を取得しましたが、その中でも特に面白いと感じたのが日商簿記でした。加えて、当時の私は簡単に取れる資格ばかり取ってはあまり将来に役立たなそうだと感じていました。そこで、さらに「会計」の世界を極めかつ将来の職業に直結する資格を取りたいと考えたのが公認会計士を目指した理由です。

現在は、無事試験に合格し監査法人で監査業務に従事しております。今後のキャリアについては、特に明確な方向性はありませんが、会計士である以上どのような業務を行うにしても会計・監査の知見は当然に期待されるものだと考えております。まずは、監査法人で会計・監査に関する知識を十分に身につけたいと考えております。幸い、現在所属しているチームでは、素敵な先輩方や同期に囲まれ、丁寧な指導を受けられております。若手の内から、現在の環境を最大限生かして、知識・経験を身につけ信頼される会計士を目指して日々精進していく所存です。

「合格への道のりと今後の抱負」



平野 裕也
(会計研究科2年)

この度は公認会計士稲門会会報へ寄稿する機会を頂き、大変光栄に思います。僭越ながら、本稿では私の会計士試験の合格への道のりと今後の抱負について書かせていただきます。

私が公認会計士を目指したのは大学3年生の春でした。当時新型コロナウイルスによって希望していた留学ができなくなり、入学以前からの目標が叶わないこととなり落ち込みました。そんな私に「会計士は国境に関係なく世界で活躍している」という話を同居していた留学生から聞きました。その話をきっかけに会計に興味を持ち、会計は企業にとって非常に重要なものであること、会計は世界の標準語であり会計士の活躍の幅は世界に広がっていることを知りました。そのような専門性を世界で活かせる公認会計士という資格を非常に魅力的に感じ、目指すことを決意しました。

受験生の期間は私にとって非常に辛い日々でした。周りが内定をもらって進路が決まる中、自習室で勉強していることに不安を感じました。覚えても覚えても忘れてしまう自分が悔しく、周囲の家族や友人に弱音を吐くこともありました。そのような中で令和5年試験に合格することができました。いつも私をそばで励ませてくれた友人や自習室で一緒に勉強してくれた仲間、何よりも一番近くで支えてくれた家族には感謝してもきれません。

今後は苦手な英語を克服しながら、保険の分野で活躍できる会計士になりたいと考えています。この目標を達成するために試験合格後も現状に満足することなく、自分の専門性を磨き続けながら、新たなことにも挑戦する公認会計士になりたいと考えています。

「合格への道のり、今後の抱負」



金子 龍太郎
(2024年会計研究科卒業)

この度は公認会計士稲門会会報への寄稿という貴重な機会をいただき、大変光栄に存じます。

私は子供の頃、漠然と大人になったら地元で働くことをイメージしていました。しかし、大学に進学し社会と自分の関わり方を考えるようになり、プロフェッショナルとして社会に貢献したいと思うようになりました。私自身は経済が好きなので、日本経済に関わる専門職を模索するうちに、公認会計士を知りました。

試験の勉強を始めてからは、専門用語や独特な考え方に慣れず四苦八苦しました。とにかく試験で合格点を取ろうとやみくもに勉強しており、どうしてその規定があるのか、現行の基準にどんな背景があるのかあまり深く考えていませんでした。そのため、公認会計士試験の勉強は楽しいものではありませんでした。しかし、一次試験に合格し、論述の勉強を始めてから私の考え方が大きく変わりました。それまで点として記憶していた知識同士が、線で結ばれることによって意味を得たためです。これにより、大学院での勉学もとても楽しくなりました。単位の取りやすい授業よりも、自分に足りていない知識を補える授業や知的好奇心を満たしてくれる授業を好むようになりました。会計士になるための知識を得ることを目的とせず、会計の専門家となるという本来の目的を目指せるようになり、勉学に対するモチベーションがとても高まりました。

これから公認会計士として働くうちに、いつしか働くことが目的になってしまう瞬間がくるかもしれません。そんな時は、学生時代のノートを眺めて、本来自分がなりたかったプロフェッショナルの姿を目指し続けていきたいです。

「ゴルフ部の活動状況について」



小川 明
(1984年商学部卒業)

2019年に公認会計士稲門会元会長の近野先生よりゴルフ幹事を引き継ぎましたが、2020年より新型コロナウイルス感染拡大の影響により、まったく活動ができませんでした。2022年より一部活動を再開いたしましたが、自粛期間にゴルフスタイルや会員の環境が変わってしまったせいか参加人数は低調に終わりました。ゴルフ部の活動は年3回のゴルフであり、次の通りです。

1. 早慶対抗ゴルフ

例年8月に開催しておりますが昨今の猛暑により開催時期を見直す予定であります。対戦成績は早稲田大学の28勝12敗と圧倒しておりますが、2022年、2023年と連敗しており、なんとか巻き返しを図りたいところであります。

2. 公認会計士稲門会ゴルフコンペ(9月ごろ)

文字通り公認会計士稲門会のゴルフコンペです。大塚宗春先生など大学教授も参加していただき、和やかな雰囲気の中でゴルフを楽しんでおります。

3. 10月会ゴルフコンペ

公認会計士の大学対抗ゴルフ大会で100名規模の大コンペです。

個人戦と団体戦があり、団体戦はグロスとネット合計スコアで争われ、ネット優勝校が翌年の幹事をするというルールです。2023年より、10名以上参加校は2チームに分割するというフォーマットにもかかわらず、昨年はグロス優勝と3位、ネット3位と4位と存在感を示しました。

今年は11月4日(祝)茨城ゴルフ倶楽部にて開催する予定ですので多くの方のご参加をお待ちしております。

また、ゴルフをやりたい方、始めたい方、大募集中です。

ご興味のある方は小川 (akky.ogawa@icloud.com) までご連絡ください。

追伸：私事ではございますが、去る4月26日房総カントリーで3度目のホールインワンを達成いたしました。

「研究心を持つ実践者に目指す」



呉 依潼
(2023年商学部卒業)

2023年度で公認会計士稲門会奨学金を受給した呉 依潼と申します。

この奨学金のおかげで、無事に早稲田の商学研究科に進学しました。寄付者の方々に、誠に感謝しております。

正直、最初は日本に来る理由はあまり偉いものではありませんでした。単に小さい頃から日本のアニメや音楽が好きだけでした。

日本に残り、早稲田で研究し続けようと思ったのも、他よりも「人との繋がり」のためです。早稲田には、尊敬している先生がいます、目指していた早稲田に成功に入学した友達がいます、世話になったがこちらからはまだ貢献していないサークルもあります。これからは早稲田で勉学して研究しながら、もっと人々と繋がっていきたいです。

実は学科を学部でのマーケティングから今の組織・戦略に変わったことも、このような組織内の繋がりを重要視しているからです。学部でマーケティングを勉強する時、どんな授業や教科書も「マーケティング力が高い組織」について教えなかったわけで、いまは自らそれを研究しています。どのように自分の今までのネットワークを最大限に活かすべきか、未来はどんな方向と手段でそのネットワークを拡張しながら整合していくべきか、学術研究のままで済むではなく、実際に自分自身にも使ってみたいです。

また今後は、研究したものを活用できる広告代理店か人事コンサル業界を志望しています。どちらに入っても、最終的な目標は、日中両国の企業が互いの国に進出する時、私がそれらの企業のサポーターになったり、仲介になったりすることです。

このようなビジネス上の提携と競争は、日中両国にとって互いのいい刺激になれるでしょう。

公認会計士稲門会ホームページのご案内

公認会計士稲門会のホームページ(以下「HP」)の一番の特徴は、「ログイン」ページを設け、会員限定記事の掲載・閲覧ができるようにしてあるところです。

現在、早稲田大学名誉教授・大塚宗春先生による「連載企画 早稲田大学の会計学の歩み」(全15回)を連載中です。2023年1月28日に「第1回 大隈重信と会計」を掲載して以来、今までに第6回までを掲載しております。

- 第1回 「大隈重信と会計」
- 第2回 「商学部の創設と会計学」
- 第3回 「中興の祖 長谷川安兵衛」
- 第4回 「長谷川安兵衛門下生の二大巨星: 佐藤孝一と青木茂男【佐藤孝一】」
- 第5回 「長谷川安兵衛門下生の二大巨星: 佐藤孝一と青木茂男【青木茂男 前編】」
- 第6回 「長谷川安兵衛門下生の二大巨星: 佐藤孝一と青木茂男【青木茂男 後編】」

是非、一度右記のURLまたはQRコードからアクセスをし、会員登録の上、会員限定記事の閲覧をして頂けますと幸いです。



<http://www.cpa-tomonkai.jp/>

なお、HPの運営は小松真実氏(公認会計士稲門会会友)の多大なるご支援のもと行われていますことをここに申し添えさせていただきます。

(広報担当副会長 抜水信博)

印刷物郵送停止を希望する会員の方へ

世間一般においてIT化が進む中、ウェブやメールで閲覧できることから郵送物の不発送のご要望を一部の会員の方から頂戴することもありました。

このような流れに対応するため、メールやHPで情報確認するので会報等の印刷物郵送は無くても問題ないとお考えの会員の方には、ご連絡方法をメールに統一し、印刷物の郵送を停止するという取組を開始いたしました。

ご自宅に郵送物の送付をご希望されず、ご連絡方法をメールに統一して良いとお考えの会員の方におかれましては、お手数ですが下記のURL又はQRコードから、印刷物不用の旨のご連絡をお願い致します。



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdyy-mELFBifVUepX1NIY0OrlPJM1bT2U-000lvVQmf_NdGVw/viewform

※年に一度の会報等の印刷物の郵送は、公認会計士稲門会の会員に公認会計士稲門会の活動を知っていただく大切なコミュニケーションの機会とも考えており、これからも会報等の印刷物の郵送は継続していく方針です。

令和5年 公認会計士試験合格者 (公認会計士稲門会調べ)

下記は、学部が早稲田大学卒業者のみの人数です。

他大学の学部卒業生で、早稲田大学大学院卒業もしくは在学中の合格者が別途23名いますので、学部、大学院全体では早稲田大学出身合格者は151名です。

(主な大学別合格者)

	大 学 名	人数
1	慶 應 義 塾 大 学	165
2	早 稲 田 大 学	128
3	明 治 大 学	101
4	東 京 大 学	56
4	同 志 社 大 学	56
6	中 央 大 学	55

	大 学 名	人数
7	京 都 大 学	50
8	神 戸 大 学	44
9	一 橋 大 学	38
9	法 政 大 学	38
9	立 命 館 大 学	38

□ 令和5年7月5日 総会



□ 令和5年9月13日 種田女性会計士部会副会長・TAC 早稲田校特別セミナー
「実務家が語る公認会計士試験」



□ 令和5年11月20日 女性会計士部会イベント「先輩にキャリアについて聞こう!!」



▣ 令和6年2月5日 藤森女性会計士部会常任幹事・TAC 早稲田校特別セミナー
「公認会計士のキャリアと活躍について」



▣ 令和6年3月28日 合格祝賀会



合格者挨拶



長谷川恵一先生
(公認会計士講座担当)



杉田 会長



名誉教授 大塚宗春先生



清水孝先生
(大学院会計研究科長)



合格祝賀会 集合写真

■ 令和6年4月17日 三田会との交流会



乾杯



杉田 純 会長
(稲門会)



小坂 義人 会長
(三田会)



茂木 哲也 先生
(三田会)



司会 小林 尚明 副会長
(稲門会)



関根 愛子 先生
(稲門会)



脇 一郎 副会長
(稲門会)

「奨学・支援金」制度へのご寄付のお願い

現在、稲門出身の公認会計士試験合格者増加を目的とした活動を行っており、早稲田大学在校生や、付属・系属高校に対して稲門CPA研究部会や後進育成部でセミナー等を開催しています。

また、「奨学・支援金」基金(特別会計)の寄付額が順調に推移した段階では、年2回、在校生、高校生に対し、受験予備校への入学金、授業料の助成として各2名程度、一人につき5万円を支給する予定です。

皆様のご協力でこの活動を支えて頂きたく、一口1万円からのご寄付をお願いいたします。

振込先：三井住友銀行／新宿西口支店／(普通) 4905568

口座名：公認会計士稲門会

— お問い合わせ先 —

三優監査法人 杉田純(CMC 齊藤) FAX: 03-5323-3660 / E-mail: cpatomonkai@bdo.or.jp

【ご寄付頂いた方のお名前】

(※敬称略)

関根愛子、杉田純、齊藤剛、脇一郎、松田修一、戸田厚司、三宮圭祐、

小林尚明、水谷太郎、田中芳宏、松下八寿彦、中村淳一郎

令和6年 定時総会のお知らせ

本年度の定時総会と懇親会でございますが、定時総会は大隈会館にて開催し、総会終了後には懇親会を開催させていただきます。

詳細・お申し込みについては、同封の「令和6年定時総会のお知らせ」をご確認下さい。

開催日：令和6年7月11日(木)

- 定時総会 18時～18時30分(受付17時30分～)
- 懇親会 18時40分～21時

会場：大隈会館201～202号室

参加費：公認会計士…8,000円・準会員…無料

— お問合せ先 —

三優監査法人 杉田 純(吉田)
電話 03-5322-3531
E-mail cpatomonkai@bdo.or.jp

登録住所及び登録メールアドレス変更の際のご連絡のお願い

会報を登録住所に送付し、メール・ニュースを登録メールアドレスに配信しています。転居や事務所移転等に伴う登録住所やメールアドレスの変更がある際には、公認会計士稲門会の事務局宛のご連絡 (info@cpa-tomonkai.jp) もしくはホームページの「お問合せ」からご連絡頂くようお願いいたします。ホームページのお問い合わせは、HOME ⇒ 問合せ、からもアクセスできます。

■ 編集後記 ■

杉田会長の最後の任期となる2023年度は、アフターコロナが進む中、稲門会活動も対面型の会合等を含め活発化し、杉田会長が掲げる「参加型」の稲門会活動の総仕上げの年度になったと思います。会合等にご参加できなかった会員の先生方にも、会報を通じてその雰囲気を感じとってもらえたらうれしく思います。寄稿者のうち合格者については、各監査法人の公認会計士稲門会幹事の皆様にご選定のご協力を頂きました。寄稿者および推薦者の皆様、ありがとうございました。

(広報担当 抜水信博、小口 敬、江黒崇史、高島知治、高山清子)

(印刷会社 三共総合印刷株式会社)

年会費のお振込みについてのお願い

当年度稲門会年会費(公認会計士8千円、協会準会員4千円)につきましては、総会当日、受付でもご納付頂けます。

また、銀行のATMやインターネットによるお振込みも可能です。その場合の口座番号は以下のとおりとなります。

会報に同封された振込取扱票に必要事項をご記入の上、ご送金頂いても結構です。準会員の方は金額訂正してください。

ゆうちょ銀行(9900)・店番(019)・店名(〇一九店/ゼロイチキュウ店)

預金種目(当座)・口座番号(0163893)

口座名:公認会計士稲門会

ゆうちょ銀行同士では、口座番号は 00170-2-163893 です。

公認会計士稲門会は、主に会員の年会費により運営されています。さらに充実した組織を目指しておりますので、会員の皆様方には、ご理解ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

— お問合せ先 —

三優監査法人 杉田 純(吉田) FAX:03-5322-3593 / E-mail:cpatomonkai@bdo.or.jp